

いんざい里山マップ

～緑深き里山のんびりコース～

南東部版

みどころ 湧水群

斜面林などからしみ出してくる地下水は湧水と呼ばれ、水温16～20℃で、夏冷たく冬は温かい。市内には、物木落（ものきおとし）の湧水群や草深（そうふけ）弁天湧水など、数多くある。弁天様（弁財天）や龍神様は、きれいな水の湧く所にまつられている。湧水は、池などで温めて水田の水に使われてきた。池やその跡が今でも残っている所がある（物木地区ほか）。

つられている。湧水は、池などで温めて水田の水に使われてきた。池やその跡が今でも残っている所がある（物木地区ほか）。



草深の森 弁天池



昔たんぼのため池として利用されていた湧水池



カラスウリ

市内の里山で見られる虫たち 獣たち

里山調査で見つけた生きものは600種を超える。虫は草や木や土などを棲み処とし、太陽と雨の恵みで生きている。花は虫を呼んで命を繋ぐ。生きもの、植物、大地が織りなす命の営みを知ることは、里山を歩く醍醐味だ。

里山に春が巡ると生きものたちがうごめきだす。よく知られているカブトムシ、タマムシをはじめ、数は少ないがウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、ジャコウアゲハ、アケビコノハ、クスサン、ウマノオバチ、水辺ではチョウトンボ、タイコウチやサワガニ、メダカ、ニホンアカガエル、イタチ、ノウサギ、タヌキなども姿を見せる。最近では外来種のアカボシゴマダラ、南方系のクマゼミなどが増えて地域の生態系を攪乱している。さらに、数年の間に数を大きく減らした虫もいる。トンボの仲間やニホンミツバチ、セイヨウミツバチなどである。生物多様性が叫ばれている今日、その影響が懸念される。

里山を歩いていると「こんなにもたくさんの虫がいたのか！」と驚かされる。そして、それらの虫は「里山はヒトだけのものではない」ことを、私たちに教えてくれる。里山は命あるすべての生きものたちが共生する、「かけがえのない貴重な空間」である。



アカスジキンカメムシ ホントタヌキ



ノウサギの足跡



ニホンアカガエル



サシバ



カワセミ

地域の特徴

北は北総線・成田スカイアクセスが走る。線路の北側の松虫集落には、皇女松虫姫伝説の残る松虫寺がある。寺から東に暫く歩くと市指定天然記念物「吉高の大桜」がある。中央部は、印旛捷水路が通っている。この水路の中間部市井橋（いちいばし）付近でナウマン象のほぼ全身骨格化石が発見された。この地区も干拓で出来た広大な水田の広がる農村風景が見られる。集落内道路を南に進むと順天堂大学に着く。この地区の南には、洪水などから村を守るといわれる水神社がある。



古老の話

- 渡し船で印旛沼を渡って高枝へ通ったよ。風が強くと船の出ない日は欠席だったなあ。(山田)
- 池に生えているハスの花を切って町に売りに行っちゃったよ。(吉高に今でも残っている湧水池)
- 裏の山でキノコやユリ根、自然薯（じねんじょ）などを採って食べたり、売りに行ったりしたもんだ。(瀬戸)

● 史跡名所	👁️ ビューポイント	⚠️ 横断注意
💧 湧水	🔍 里山穴場スポット	🌾 水田
🚻 トイレ	📏 参考ルート	🌲 斜面林緑地
🏪 コンビニ	👤 散策ルート	🚰 公共機関

何の写真かわかるかな？答えはウラを見てね！

